

R02 二小校内研 研究推進だより

No.05
R02.12.21
研究推進委員会

本年度の授業研を終えて・・・
本年度はイレギュラーな研究会の持ち方をしたことで、全教職員での共有という点ではとても難しかったですね。しかし、提案授業では大切なキーワードがしっかりと示されていました。残り僅かな3学期ですが、チャレンジがしやすい時期でもあります。ぜひ、実践を積み上げ、次年度につながる3学期にしていきたいと思います！

☆今年度のポイント☆

単元で育てたい資質・能力や各教科の見方・考え方をふまえて、逆向き設計で単元計画を立てることが大切です。
授業の構造化を図り、問題解決の筋道を立てて考える習慣は課題に向かおうとする姿勢を育みます。学習の過程において、多様な「かかわり」が思考を広げることにつながり、「思考を深める」ために有効な手立てが提案されました。



- 必然性のある学習課題の設定**
- ☆スリム化された問題の提示
 - ☆比較(共通点の確認→課題発見)
 - ☆動作化などの活動(視点の意識)
 - ☆場面設定の工夫
 - ☆活用問題の設定
 - ☆資料・データの提示 ...等



◎単元設計「知→協→実」



かかわりの対象は目的とともに順序に意味がある！
まず、子ども一人ひとりがテキスト等のかかわりで自分の考えを持つ時間と場の保障が必要です。その上で、ペアワーク・グループワークが自分の思考を確かめたり、広げたりする場となります。次の段階で再びひとり学びの時間を保障することで、思考を深めることにつながります。

学びをつなぐ子ども
必然性のある学習課題設定へ

◎学年に応じたペアワーク

低学年	ペアで	話して、聞く。
中学年	2～4人で	話して、聞いて、比べる。
高学年	2～4人で (意図的であれば多数で)	話して、聞いて、比べて、よりよいものをつくり出す。

広げた思考をどう扱うか、「深める」ためのしかけが大切

<PW・GWで広がった思考が「深める」につながるために>

- ☆話し合いの方法:ジグソー法(焦点化)・KJ法(比較・分類・整理)等
- ☆思考ツールの活用(ワークシート・板書の工夫と関連して)
 - ・ボーンチャート・座標軸・ウェビング・くらげチャート・同心円 等
- ☆切り返し・問い直し
- ☆資料やデータの効果的な提示
- ☆カードやボードの活用で視覚化(シンプルな作業で誰もが参加)
- ☆ICT活用(資料配布や全体共有を効果的に)

◎かかわりのしかけ
GWで思考を「広げる」 → ひとり学びで思考を「深める」

「ふりかえり」の時間の優先順位を上げる！

